

1. <施策の概要>

基本構想	活力あふれ魅力ある学研都市のまちづくり	統括課	総務部・企画調整課
基本計画	けいはんな学研都市		
施策	学研都市の推進	関連課	
方針・目標等	◆学研都市建設・運営の推進 ◆都市ブランドの情報発信 ◆学研都市建設の成果を実感できるまちづくり		
実施内容	◆パイロットモデル事業の誘致 ◆三府県八市町の広域的連携 ◆中央要望活動 ◆都市ブランド向上に係るPR活動 ◆文化芸術振興の取り組み		

2. <指標の設定>

①	重点	指標	単位	他団体比較		算式・引用等			
				団体名	実績/年度				
①	○	交流人口(昼間人口)	名	昼夜間人口比率全国順位	1,866位(76.7%)	22 国勢調査			
②	○	学研都市イベント参加者数	名			町等主催の学研関連イベント			
③	○	京都府立けいはんなホール稼働率	%			企画調整課調べ			
④		学研都市建設事業費累計額	億円			普通建設事業費累計			
⑤		学研都市立地施設数(精華町内)	施設			(公財)関西文化学術研究都市推進機構調べ			
				H22(実績)	H23(実績)	H24(実績)	H25(実績)	H26(試算)	H27(試算)
①	目標	25,668	-	-	-	-	-	35,000	
	実績	25,668	-	-	-	-	-	-	
②	目標	35,000	35,000	35,000	40,000	40,000	40,000	40,000	
	実績	40,699	36,846	39,100	35,510	-	-	-	
③	目標	-	-	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	
	実績	26.8	28.8	25.4	23.8	-	-	-	
④	目標	923	939	951	963	973	980		
	実績	925	939	951	962	-	-		
⑤	目標	43	44	45	48	50	52		
	実績	43	44	45	48	-	-		

3-1. <指標から読み取れる成果と課題>

・学研都市建設事業費累計額や立地施設数の動向から、人口急増を抑えた成長管理型の都市運営による成果が現れている。
 ・立地施設数は、着実に増加しており、今後、交流人口(昼間人口)の増加が期待できる。一方、けいはんなホール稼働率及び学研都市イベント参加者数が減少傾向にあり、学研都市にふさわしい文化芸術振興の推進と、さらなる学研都市のPRを行っていく必要がある。今後も引き続き、NPO団体をはじめ、文化芸術振興による学研都市の活性化を図り、交流人口の増加と共に、まちの賑わいを創出していく必要がある。

3-2. <住民ニーズ等を踏まえた課題・他自治体の取り組みから学べる点>

・産学公民の連携をさらに強化し、文化・芸術の推進のほか、あらゆる取り組みにおいて学研都市ブランドを育成し、定着させていく必要がある。

4-1. <施策を構成する事業>

重点	部門 ／事業名 ／種別／決算書説明頁	事業費(人件費含む)／事業費のみ／事業費一財 <単位：千円>					
		H22(実績)	H23(実績)	H24(実績)	H25(実績)	H26(予算)	H27(試算)
1	企画調整課	19,265	19,327	20,586	18,554	18,055	18,055
	学研都市建設推進・活性化事業	7,500	7,500	7,500	7,999	7,500	7,500
	一般事業 61	7,500	7,500	7,500	4,419	7,500	7,500
2	企画調整課	5,666	6,815	8,485	7,986	7,986	7,986
	けいはんな学研都市文化振興事業	1,160	1,160	1,160	1,160	1,160	1,160
	一般事業 63	1,145	826	940	909	1,145	1,145
3	企画調整課	12,543	12,920	12,959	11,220	11,220	11,220
	せいか祭り開催負担金	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
	一般事業 65	0	0	0	0	0	0
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

4-2. <施策を構成する事業の成果と課題>

・学研都市三市町行政連絡会では、三市町(精華・木津川・京田辺)が連携し要望活動、PR活動などを展開した。しかし、次のステージに向けた建設推進と都市運営の課題について、三市町間で認識が異なる傾向にある。・24年度より、立地施設を活用した科学のまちの子どもたちプロジェクトなど、広域連携の推進につながる催しを実施することができた。・文化振興では、けいはんなホールや役場交流ホールを活用したコンサートを開催した。ふれあいコンサートでは、観客の要望等を踏まえ、開催内容を検討する必要がある。・せいか祭りは、本町を代表するイベントとして各種団体と協働し開催することができた。新たな施設立地に伴う駐車スペースの減少などの課題はあるが、継続開催に向け対応策を検討する必要がある。

5. <施策の今後の方向性>

・引き続き、各種団体、民間活力とタイアップしながら、各種イベントの開催を通じて、学研都市にふさわしい文化・芸術の振興、学研都市の魅力を広くPRするとともに、都市の活性化に向けた取り組みを行う。
 ・学研都市を構成する各市町間における学研都市の建設及び都市運営推進の諸課題を整理し、効果的、効率的な活動を実施するなど、学研都市の広域的連携の一層の促進を図る。